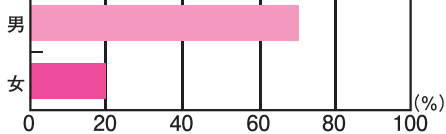


日本における喫煙とがん死亡について

●肺がん死亡の原因のうち喫煙が占める割合は、男性で7割になっています。(国立がん研究センター)



喫煙による煙には、4,000種類以上の化学物質が含まれ、有害物質

たばこの煙の中に70種以上の発がん性物質 がん・循環器・呼吸器疾患などの原因に

たばこをやめたい人へ 禁煙宣言1万人達成事業の参加者募集中!
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/57/kinnensengenichimannnin.html>

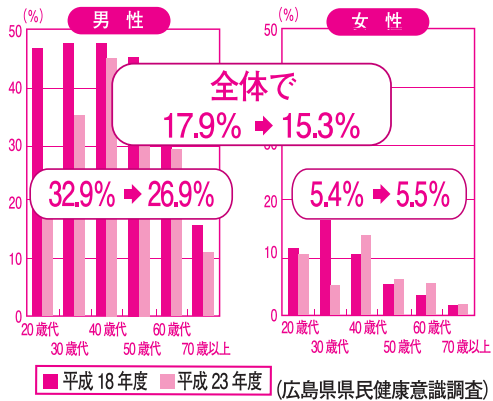


広島県健康福祉局健康対策課

① たばこの害を理解しよう

広島県の喫煙状況

これまで合計 100 本以上又は 6 カ月以上継続して吸っていて、ここ 1 カ月で毎日若しくは時々吸っている人



喫煙者はたばこを吸わない人に比べ、男性では4.5倍、女性では2.3倍、肺がんが死亡するリスクが高くなります。また、男性の場合、喉頭がんが死亡するリスクが32.5倍という結果が出ています。ほかに、口腔、咽頭、食道、胃、大腸、膵臓、肝臓、腎臓、尿路、膀胱、子宮頸

癌、さらに、喫煙により動脈がつまりやすくなるため、心筋梗塞や脳卒

中、糖尿病のリスクが高くなります。広島県の喫煙率の状況は、男女計15.3% (平成23年度)であり、前回調査に比べ減少しているものの、30～50歳の男性では30%を超えており、女性の20歳代、40歳代では10%を超えています。

喫煙者は、いつもせき払いをするなど、慢性気管支炎といわれる状態にあります。また、慢性閉塞性肺疾患(COPD)にかかりやすく、その結果、息が切れ、酸素不足(慢性呼吸不全)になります。さらに、喫煙すると気管支喘息を悪化させ、肺炎や肺結核などにかかりやすくなります。

喫煙が健康に与える影響は大きい上、受動喫煙の危険性やニコチンの依存性を踏まえると、喫煙習慣は個人の嗜好にとどまらない健康問題であり、生活習慣病を予防する上で、たばこ対策は重要な課題となっています。日本人の成人喫煙率は、平成23年度では20.1% (平成22年度は19.5%)で前年より上昇し、男性の喫煙率は32.4%、女性の9.7%という状況です。たばこを吸う人はもちろん、吸わない人も、たばこの害をよく知り、禁煙、そして受動喫煙の防止を進め、たばこのない毎日をはじめましょう。

このため、県では、たばこ対策推進事業として、たばこをやめたい人への禁煙支援、たばこを吸わない人への受動喫煙防止対策の2つを大きな柱として取り組みを行っています。第2回では、たばこをやめたい人への禁煙支援についてご紹介しま

す。

5月11日、呉市音戸町で、音戸地区公衛協をはじめ、音戸町まちづくり協議会・脱温暖化ネットおんど、地元の高校などが協働で、「スポーツGOMI拾いinおんど」が開催された。前日から降



⑨呉市音戸地区公衛協【スポーツGOMI拾い】

り続いた雨もやみ、曇り空の下での競技となった。今回は全国で141回目、広島県内で6回目、呉市では初めての開催。家族や仲間とチームを組み、音戸のまちをステージにごみ拾いという競技を楽しんだ。参加チームは全28チームで、地元中学校、老人会、企業、自治体職員のほか県外からの参加もみられた。

奉仕活動からスポーツ・競技へ

地元のごみ問題に関心を



集めてきたごみはチームごとに計量し、記録する(右)、集めた成果と共に参加者全体で記念撮影(上)

目立つ。子どもに対してイメージが悪く、将来的にも不安が残る(自治体職員)との声。また、この日は駐車場広場で朝市が開かれており、参加者には地元グルメや特産品がふるまわれ、地域ぐるみでイベントを盛りあげた。集められたごみの総重量は222kgで、プラスチック系のごみや燃えるごみが多くみられた。優勝したチームが回収したごみの重量は33.8kgで、「チーム一丸となり、優勝を手にした。観光地

にこんなにたくさんごみが落ちていたということは残念。今後は、ごみ問題を意識し、きれいな町づくりに貢献したい」と思いを語られた。

閉会式で、公衛協の島本博基会長は、「ごみ問題は、日々の暮らしの中で考えていくべき問題であり、これを機会にみなさまにもごみ問題について関心を持ってもらい、地元でも今一度考えてもらうことをお願いしたい」とまとめた。

(地域活動支援センター)

スポーツGOMI拾いとは

決められた競技エリアで、制限時間内にチームで集めたごみの質と量を競い合うエキサイティングな環境貢献活動である。県内では過去に、広島(3回)、世羅(1回)、福山(1回)で開催されている。



⑤しのうエコ推進会

しのうエコ推進会(庄原市板橋町)は、平成24年3月15日に県内26番目の地域協議会として設立した。活動内容は、花回廊整備や花いっぱい運動、イベントでの脱温暖化啓蒙活動、グリーンカーテン事業など数信自治振興区で永年取り組んでいる活動を礎に、さらに住みよい

まちづくりを目指している。6月1日(土)、平成24年度から企画してきた「グリーンカーテンコンテスト」を実施するため、キックオフイベントが行われ、住民約20名が集まった。今回のイベントでは、脱温暖化の普及啓発に視点を置き、参加者自ら、牛乳パックを利用したエコがさづくりや廃食油を利用したかわいいキャンドルづくりを体験した。最後に、グリー

グリーンカーテンコンテスト開催

見ごろになったら写真を提出

参加者には、同会の奥田事務局長が考案した地元種苗部、企業・団体の部に分けて審査を実施し、



種子袋を配布し、活動参加を呼びかける

ンカーテンコンテストについて説明があった。コンテストは、CO₂の削減効果は問わず、「食べられるカーテン」で食料を得るもよし!きれいなカーテンで家を飾り、目を楽しませるもよし!をうたい文句に、みんなが気軽に楽しく挑戦することをねらいとしている。

今後、家庭のグリーンカーテンが見ごろになったタイミングで各自写真を撮り、事務局に送付する。同会では、個人の部、自治会対抗の部、企業・団体の部に分けて審査を実施し、

上位作品を表彰する予定である。「まずは楽しみながら」と笑顔でエントリを依頼する奥田さん。活動を通じて脱温暖化を目指すコミュニティの「わ」が広がることを期待したい。

(脱温暖化センターひろしま)